



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

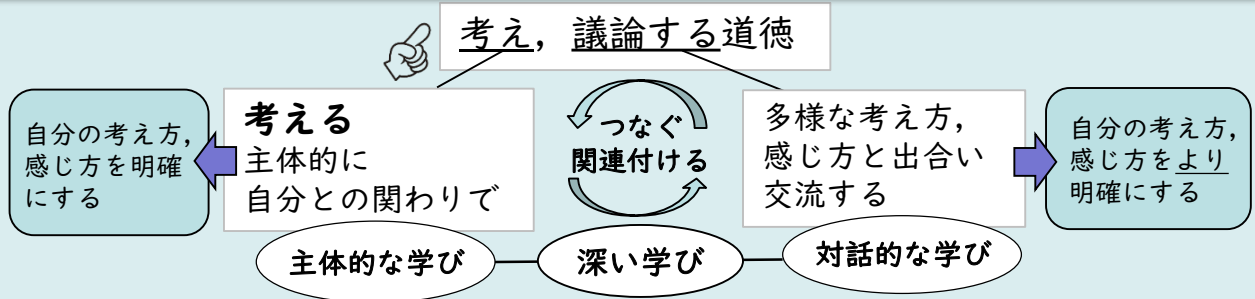
令和6年度 道徳教育研修会 「考え、議論する道徳」への質的転換を図る指導と評価

令和6年6月7日（金）実施



講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課 堀田 竜次 教科調査官

I 道徳科の特質を理解し「考え、議論する道徳」への質的転換を図った授業イメージをもちましよう！



【自己を見つめる】

- ・ 道徳的諸価値について、自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、考えを深める。



【多面的・多角的に考える】

- ・ 多様な感じ方や考え方に接する。
- ・ 多様な価値観の存在を前提に考える。
- ・ 他者と対話したり協働したりしながら考える。

道徳科では、児童生徒が「自己を見つめ」「(広い視野から)多面的・多角的に」考える学習活動において、「道徳的諸価値についての理解」と「自己(人間として)の生き方についての考え」を、相互に関連付けることによって、深い理解、深い考えとなっていく。

II 明確な意図をもって授業をしましょう！

III ICTを活用し、全ての子供たちの可能性を引き出しましょう！

| | | | |
|---|---------|--------------|--|
| ねらいや指導内容についての教師の捉え方を明確にする。 | 道徳的価値 | 教師の明確な意図が重要！ | 【例】 <ul style="list-style-type: none">・ 心情円等による、子どもの心の可視化・ 一斉表示で友だちの考えを知る・ タブレット端末を持って、友だちの考えを聞きに行く・ 個に応じた指導の工夫（ワークシートまたはタブレット端末の選択、思考ツールやカメラ機能等の活用）・ ポジショニング機能の活用による意思表示・ 複線型による学習・ 蓄積（学習の振り返り） |
| ねらいや指導内容に関連する児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願いを明確にする。 | 児童生徒の実態 | | |
| 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法を明確にする。 | 教材の活用 | | |

学級の実態等に応じて、教師がねらい等をどう捉え、教材をどう活用するのか、また板書や発問などの指導方法の工夫等、**明確な意図をもった指導**が大切です。

直接話すことを大事にするとともに、タブレット端末の活用によって一人一人の子どもを考えを深め引き出す工夫をしましょう。

【受講者の感想】

- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの充実を改めて考えた。本校は道徳科の授業改善に取り組み3年目になる。道徳の授業スタイルを基盤に、みんなで楽しみながら授業することを意識している。授業資料ストック等は確立できたので、次はICT活用にシフトしていきたいと思う。心情円等は使っているので、自己を見つめるためのタブレット端末でのデータの蓄積は興味深い。
- ・ 発問を設定する際の三つの観点を整理して学べた。夏休みの校内研修にて、本研修の伝達研修とともに発問の設定の仕方やグループワークを企画してみたいと思った。



【講義】「授業における1人1台端末の活用を目指した校内研修の在り方について」

講師：熊本大学大学院教育学研究科 前田 康裕 特任教授

AARモデルによる授業改善【教師による探究的な学び】
1年間を通じたICTによる授業改善・校内研修の改革

1人1台端末を活用することは大前提
『すべての子どもたちの可能性を引き出す』ために、教師がすべきこと

年度当初（4月～6月）

見通し
問いを立てる

Anticipation

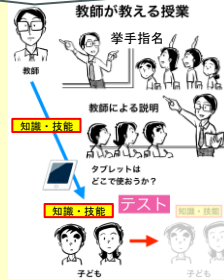
自分の授業の問題点を明らかにする
一人一人が授業改善の課題を立てる
課題解決の取組をチームで考えて見直しをもつ

私の授業は、教師が教え、一部の児童生徒の発言で授業が進んでしまっているの、対話を重視した授業をしていきたい。



授業改善のために研究主任として取り組むべきことは何だろう。これまで通りの研究授業で良いのでしょうか。

今、どのような授業が求められているのかを知ることが大事！その上で、問題解決の力をどのように身に付けさせるかが大切になります。



自分の課題ごとにチームを組んで、課題を解決していく

チームの課題 → 取り組んでいく見通し

- 学習課題をどうつくるか
- A先生の授業スタイルをやってみよう！
- ☆ タブレットの有効的な活用ができていない
- ☆ 授業におけるICT活用のステップ
- ◇ 振り返りをどう設定するか
- ◇ 振り返りは必ず行う

一年を通しての実践（7月～1月）

実践する

Action

教員同士も力を合わせて問題解決へ

一人一人が日常的に課題解決を行っている

教師による探究的な学び

「従来の授業+ICT」ではなく「ICTを使って授業改善」を行う

【教師の役割】

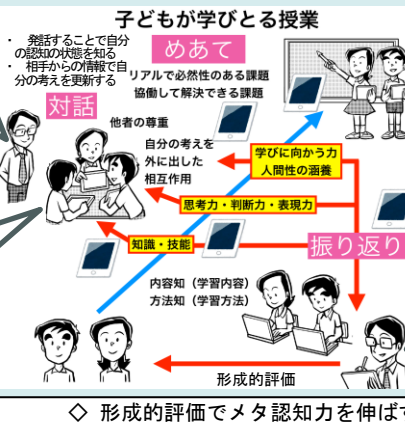
学習方法（こういう風にやると分かるという）学び方が分かるように、形成的に評価していく。

精緻化（せいじか）が促される
・ 自分で情報を加える
・ 自分の言葉で説明する

子どもが学び方を学ぶ
・ 学びを交流する
・ 学び方を知れば学習が楽しくなる

「次はほくもまねして書いてみよう」「そういう見方もあるんだあ」という気付きも生まれる

コンテンツベースの学習+コンピテンシーベースの学習



目指す「子ども」の姿
□ めあて（学習課題・到達目標）は、協働して解決できる高いハードルが求められる。（例：平行四辺形の面積の求め方を誰が聞いても分かるように図を描いて説明しよう）

☆ アナログで行っていたことをデジタルで代用（ステップ1）

- ◇ 振り返り・評価の視点
 - ・ 自らの気付きを明確にしている記述
 - ・ 自らの伸びや課題を実感している記述
 - ・ 他の経験や学習と結びつけた記述
 - ・ 友達からの学びを意識した記述

デジタルの良さ
↓
振り返りを共有することができる ⇒ 人から学ぶ

◇ 形成的評価でメタ認知力を伸ばす

- ☆ デジタルの特性を生かして学習効果を増強（ステップ2）
- ☆ 児童生徒が主体的に学習の道具として使用（ステップ3）
- ☆ 児童生徒がICTを駆使して新たな価値を創造（ステップ4）

研究授業

従来の授業研究会 リフレクションを促す授業研究会

- 1 授業者の自評
- 2 質疑応答
- 3 意見交換（挙手指型）（ワークショップ型）
- 4 助言

- 1、授業者の自評
- 2、タブレットで一齐に記入（良かった点と改善点）
- 3、対話による改善のアイデア

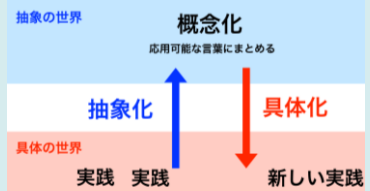
- 4、対話によるポイントの概念化
- 5、対話による自分の授業の改善点
- 6、全体の振り返り（学んだこと）

振り返り

Reflection

自分の授業はどうか

チームの取組はどうか



研究授業時

対話による授業研究
授業について概念化と省察

自分事として自分の授業を見直す

取組の共有・次年度に向けて（2・3月）

共有
振り返り

Reflection

取組を全員で共有【実践報告会】

次年度の見通し

1年間を通じた自分の学びを振り返る

新たな問いを立てる

課題に対して、1年間取り組んできた実践を共有し、自分の学びを振り返る



教員一人一人の意識が高まっていることを実感できたわ。研究の成果が、他の教職員にも共有されて役立っているわ。



困難や失敗があるからこそ人は変わる…他人から欠点を指摘されても人は変わらない…自分を変えることができるのは、自分だけなんです！

1年間の自分の学び（成果と課題）を対話によって明らかにする。「学びのサイクル」をつくっていく。

イラストの出典：前田康裕著『まんがで知る デジタルの学び3 授業改善プロジェクト』（さくら社）[掲載許可済]

【受講者の感想】

- ・ 校内研修の改革について、AARモデルを習ったので、抽象化から概念化、そして具体化するという手法を校内で共有して、校内研の在り方を改善していきたい。
- ・ 来月の研究授業の中で、概念化の取組を行う。課題から考えたシートを研究テーマを考える際になどに活用したい。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。